

そう だい
総 題 「この最も小さい者」

だいろっか 第6課
そうぞうしゅ れいはい
創造主を礼拝せよ

いとう ひろし
伊藤 裕史

いち あんそくにち ご ご こんしゅう
1. 安息日午後（今週のテーマ）

せんしゅう かみ たみ おこな れいはい きゅうやく よげんしや たす ひつよう ひと ほうし い まな
先週のガイドでは、旧約の預言者が助けを必要としている人たちへの奉仕について言っていることを学びま
した。

こんしゅう かみ たみ おこな れいはい きゅうやく よげんしや ことば まな
今週は神の民たちが行 うべき礼拝を、旧約の預言者の言葉をとおして学びます。

れいはい たん しゅうきょうてき ぎしき ほか ひと かみさま おも かん おこな
礼拝が、単に宗教的な儀式ではなく、他の人たちへの神様の思いをいっしょに感じて、行 っていくことで
あることを確認していきましょう。

に にちようび ぐうぞうれいはい よくあつ
2. 日曜日：偶像礼拝と抑圧

しゅつ できごと なか たみ れいはい おお しっぱい
出エジプトの出来事の中で、イスラエルの民たちは礼拝について大きな失敗をします。

おお ふあん かん かれ じぶん きん こうし ぞう つく
モーセがいなくなり、大きな不安を感じたとき、彼らは自分たちで金の子牛の像を造り、おがんでしまったので
す。

かみ たみ ぐうぞうれいはい おこな
神の民が偶像への礼拝を行 ってしまったのです。

ぐうぞうれいはい しん かみさま おも
偶像を礼拝するということは、真の神様への思いをすてることです。

しん かみさま かんが かた かみさま ほか ひと せつ ほか ひと おも
そして、それが真の神様の考 え方（ここでは神様の他の人への接しかた、他の人への思い）をすてることに
つながっているのです。

たみ きん こうし かみさま かんが たす ひつよう ひと せつ
イスラエルの民たちが金の子牛をおがんだことは、神様が考 えておられた助けを必要としている人たちへの接
しかたや思いを捨てたことにつながっていたのです。

わたし かみさま じぶん こうどう き
このように 私たちは、おがむ神様によって、自分の行動を決めているのです。

さん げつようび れいはい りゆう
3. 月曜日：礼拝する理由

かみさま せいしよ かみ たみ かみさま れいはい すす
神様は聖書をとおして、神の民は神様を礼拝するように勧めています。

れいはい かみさま わたし かんけい み
礼拝は、神様と 私たちの関係を見つめることだけではありません。

わたし れいはい かみさま せいしつ ぜんりょう すなお せいかく やさ せいぎ こうい ただ あわ
私たちは礼拝で、神様のもっている性質（善 良 さ（素直で性格が優しい）、正義（行為の正しさ）、憐れみ
（包むような愛））を知って、ほめたたえるのです。

れいはい かみさま ちよくせつたいけん ひと つた
この礼拝をとおして、神様とのことを直接体験できなかった人たちへも伝えられていくのです。

わたし けれども、^{れいはい}礼拝をとおして、^{かみさま}神様がどのような方であるかを知ることができました。

これまで ^{わたし}私たちに^{れいはい}礼拝で^{つた}伝えられてきた^{かみさま}神様の^{せいしつ}性質は、^{たん}単に^{かみさま}神様が^{さべつ}わけへだて（差別）^{されな}いということだけではありません。

まずしく、いじめられた人たちへの^{あわ}隣れみ（^{つつ}包むような愛）の^{あい}心をもっておられる^{かみさま}神様です。

^{かみさま}神様は、^{かみ}神の^{くに}国であってはいけな^{まちが}いこと^{ちじょう}の間違^{ただ}いを^{かた}地上で^{ひつよう}正しくして^{くだ}いく方であり、^{かた}必要に^{かた}こたえて^{かた}下さる方です。

このような^{かみさま}神様が^{れいはい}礼拝で^{つた}伝えられてきたのです。

4. ^{よん}火曜日：^{かようび}信心深い^{しんじんぶか}抑圧者たち^{よくあつしや}

^{おうこく}イスラエルの^よ王国では、^{おうさま}良い王様に^{かみさま}みちびかれ^{とき}神様に^{まちが}した^{かみさま}が^{すがた}つた^{つた}時でさえ、^{かみさま}間違^{すがた}った^{つた}神様の^{すがた}姿が^{つた}伝えられてきました。

だから、^{ひとびと}人々を^{かみさま}神様の^{れいはい}もとに^{れいはい}みちびく^{れいはい}礼拝では^{れいはい}なかつた^{れいはい}のでしょう。

^{わる}悪い^{まちが}ことに、^{つた}間違^{しんじんぶか}って^{おこな}伝えられていても、^{おこな}それが^{おこな}信心深い^{おこな}ものとして^{おこな}行^{おこな}われていたのです。

そこでおこなわれていたのは、「^{まず}貧しい^{もの}者を^ふ踏みつけ／^{くる}苦しむ^{のうみん}農民を^お押さえつける」ことでした。

（^{はち}アモス 8：4）

だから、^{かみさま}神様は「^{かみさま}わたしは^{まえ}お前たちの^{まつ}祭りを^{にく}憎み、^{しりぞ}退ける。^{まつ}祭りの^{ささ}献げ物の^{もの}香りも^{かお}喜ばない。」

（^ごアモス 5：2 1）と言われるのです。

^{きゆうやく}旧約の^{よげんしや}預言者たちをつうじて^{おし}教えようとしていたのは、^{けいしき}形式ではなく、「^{せいぎ}正義を行^{おこな}い、^{いつく}慈しみを^{あい}愛し、^{あい}へりく^{かみ}だつて^{とも}神と^{あゆ}共に^{ろく}歩む」（ミカ 6：8）という、^{しん}真の^{れいはい}礼拝の^{かいふく}回復を^{もと}求めるものだったのです。

5. ^ご水曜日：^{すいようび}礼拝の^{れいはい}仕方^{しかた}

では、^{かみさま}神様が^{もと}求める^{れいはい}礼拝、^{こんかい}今回の^{たす}助けを^{ひつよう}必要としている^{ひと}人たちへの^{おも}思いが^こ込められた^{れいはい}礼拝とはどのようなものなのでしょうか。

^{しよごじゅうはつしやう}イザヤ書 5 8 章を^よ読んで^{くだ}みて下さい。

そこに、^{ひと}一つの^{れいはい}礼拝の^{すがた}姿（^{たす}助けを^{ひつよう}必要としている^{ひと}人たちへの^{ほうし}奉仕の^{かた}すがた）が^{かた}語られています。

「^う創^{ひと}えている^{こころ}人に^{くば}心^{くる}を^{ひと}配り／^{ねが}苦しめられている^み人の^{ごじゅうはち}願いを^{じゅう}満たす」（イザヤ 5 8：10）というようなことも^{れいはい}礼拝^{れいはい}なのです。

^{わたし}私たちは^{しゅう}週^{でんとうてき}ごとの^{れいはい}伝統的な^{ほうほう}礼拝の方法で^{まんぞく}満足しています。

これ（^{しゅう}週^{でんとうてき}ごとの^{れいはい}伝統的な^{わたし}礼拝）は、^{じぶん}私たちが^{ないめん}自分の^め内面に^む目を^{れいはい}向ける^{れいはい}礼拝です。

これ（^{しゅう}週^{でんとうてき}ごとの^{れいはい}伝統的な^{まちが}礼拝）は^{まちが}まちがって^{まちが}いません。

しかし、この^{ことば}み言葉（イザヤ 5 8 章）を^よ読むとき、それが^{ゆいいつ}唯一の方法でないことに^き気づかれます。

^{わたし}私たちは^{まわ}周り^{ひと}にいる^{しゆくふく}すべての^{あた}人に^{れいはい}祝福を^も与える^も礼拝も^も持つべき^もなのでしょう。

ろく もくようび あわ ちゅうじつ
6. 木曜日：憐れみと忠実さ

イエス様は預言者ホセアの『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい」(マタイ 9 : 13) と言われました。

イエス様は助けを必要としている人たちのところでいっしょに過ごされました。

これは当時の人たちの宗教指導者の姿とは違うものです。

イエス様のマタイ 23 章の律法学者、ファリサイ派の人々への言葉が、終わりの時に私たちへ向けられる言葉とならないようにしたいものです。

真(ほんとう)の礼拝とは、天で行われている礼拝であり、神様のみちびかれた助けを必要としているすべての人と行う礼拝です。

私たちの礼拝が、それを実現していくことができるように、これからの学びを進めていきましょう。